

第1章 GreenGift 地球元気プログラムとは何か

表7. プログラム9年間の実績と社会の出来事

	期・形式	開催実績	社会の出来事	環境分野の動き
2013	第1期	16地域 57回のイベント開催 3182名参加(子ども1339名)	・2020東京五輪誘致決定 ・公職選挙法、DV防止法など開催 ・生活困窮者支援自立支援法の成立	・COP19クルシャック開催 ・水銀に関する水俣条約が採択
2014	単年度開催	16地域(継続5地域) 51回のイベント開催 4156名参加(子ども1580名)	・ソチ冬季五輪開催 ・西日本で8月に豪雨被害 ・特定秘密保護法施行	・COP20リマ開催 ・ESDに関するグローバルアクションプログラム(GAP)が採択
2015		16地域(継続6地域) 44回のイベント開催 4656名参加(子ども1497名)	・女性活躍推進法の成立 ・関東、東北地方で豪雨被害 ・安全保障関連法の成立	・COP21パリ開催 ・持続可能な開発目標が採択 ・気候変動枠組条約が採択 ・GAPの開始
2016		第2期	22地域 45回のイベント開催 1659名参加(子ども864名)	・電力自由化スタート ・熊本地震 ・相模原障害者施設殺傷事件 ・伊勢志摩サミット開催
2017	三年間の複数年開催	21地域 42回のイベント開催 1754名参加(子ども754名)	・九州北部豪雨 ・核兵器禁止条約採択	・COP23ボン開催 ・水銀に関する水俣条約が発効 ・全国29の河川でマイクロプラスチック調査を実施
2018		22地域 48回のイベント開催 2669名参加(子ども1223名)	・平昌五輪開幕 ・成人年齢18歳に引き下げ成立 ・大阪北部地震 ・西日本中心の豪雨 ・北海道地震	・COP24カトヴィツェ開催 ・水銀に関する水俣条約が発効 ・全国29の河川でマイクロプラスチック調査を実施
2019	第3期	21地域 18回のイベント開催 335名参加(子ども127名) 9種類のツール開発	・天皇陛下が即位、新元号の発表 ・ラグビーワールドカップ日本大会 ・京都アニメーション放火事件 ・G20サミット大阪	・COP25マドリッド開催 ・ESD for2020枠組みが採択
2020	三年間の複数年開催	21地域 15回のイベント開催 256名参加(子ども138名) 18種類のツール開発 夏の特別企画を開催	・新型コロナウイルスの感染拡大、緊急事態宣言 ・東京五輪・パラリンピック延期 ・九州で豪雨被害	・政府が2050年までの脱炭素社会を目標に設定 ・持続可能な社会の創り手の育成が明記された新学習指導要綱が本格実施
2021		21地域 38回のイベント開催 644名参加(子ども333名) 2種類のツール開発	・東京五輪・パラリンピック開催 ・新型コロナウイルスワクチン接種開始	・COP26グラスゴー開催 ・2021年6月G7コーンウォールサミットで「G7・2030年自然協約」が採択 ・自然公園法改正

第2章 GreenGift 地球元気プログラムが残したもの

この章では地球元気プログラムの9年間の実績と成果について紹介します。

1. データで振り返る実績

1-1 開催実績

環境体験イベント実施地域・参加団体数：42 都道府県・延べ 176 団体（実数 64 団体）

環境体験イベント開催数：356 回

環境体験イベント参加者数：全参加者 19,331 名・子ども 7,855 名・子ども参加率 40.6%

環境体験イベント開催に協力したステークホルダー数：484 団体※ 2015 年～ 2022 年

環境体験イベントに参加した東京海上日動の部・支店・社員数：114 支店・社員 1,268 名※ 2015 年～ 2022 年

コロナ禍で開発した環境啓発ツール数：29 種類※ 2019～2022 年

開催地域・実施団体 42 都道府県 64 団体

中国 (4 県 7 団体)

- 鳥取県
特定非営利活動法人未来守りネットワーク
- 岡山県
特定非営利活動法人フォレストフォーピープル岡山
認定特定非営利活動法人おかもやまエネルギーの未来を考える会
ミズシマ・パークマネジメント・ラボラトリー
- 広島県
特定非営利活動法人自然環境ネットワークSAREN
特定非営利活動法人三段峡 - 太田川流域研究会
- 山口県
スリー・ヒルズ・アソシエイツ

中部 (6 県 8 団体)

- 福井県
ハスプロジェクト推進協議会
小原 ECO プロジェクト
- 長野県
特定非営利活動法人やまぼうし自然学校
- 岐阜県
森・川・海ひだみの流域連携協議会
- 静岡県
特定非営利活動法人はまなこ里海の会
- 愛知県
特定非営利活動法人藤前干潟を守る会
特定非営利活動法人もりの学舎自然学校
- 三重県
特定非営利活動法人 JointPlus

北海道 (2 団体)

- 特定非営利活動法人いぶり自然学校
- 認定特定非営利活動法人きたネット

東北 (6 県 10 団体)

- 青森県
特定非営利活動法人 ECO リパブリック白神
小川原湖自然楽校
- 岩手県
マイムマイム奥州
一般社団法人いわて流域ネットワーク
- 宮城県
公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
- 秋田県
特定非営利活動法人秋田パドラーズ
一般社団法人あきた地球環境会議
- 山形県
特定非営利活動法人環境ネットやまがた
やまがたヤマネ研究会
- 福島県
特定非営利活動法人森の遊学舎

四国 (4 県 5 団体)

- 徳島県
特定非営利活動法人新町川を守る会
一般社団法人かみかつ里山倶楽部
- 香川県
特定非営利活動法人アーキペラゴ
- 愛媛県
特定非営利活動法人どんぐり王国
- 高知県
特定非営利活動法人砂浜美術館

九州 (8 県 9 団体)

- 福岡県
北九州 ESD 協議会
- 佐賀県
特定非営利活動法人元気・勇気・活気の会
- 長崎県
特定非営利活動法人環境保全教育研究所
- 熊本県
特定非営利活動法人水のとらベル隊
- 大分県
特定非営利活動法人緑の工房なぐらす
特定非営利活動法人エー・ピー・シー野外教育センター
- 宮崎県
特定非営利活動法人大淀川流域ネットワーク
- 鹿児島県
特定非営利活動法人 Panda
- 沖縄県
一般財団法人沖縄県公衆衛生協会

近畿 (4 府県 9 団体)

- 大阪府
特定非営利活動法人シニア自然大学校
特定非営利活動法人日本パークレンジャー協会
- 兵庫県
ゆめさきの森公園運営協議会
特定非営利活動法人宝塚 NISITANI
やしろの森公園協会
- 奈良県
奈良・人と自然の会
特定非営利活動法人宙塾
- 和歌山県
特定非営利活動法人 Blue Ocean for Children
公益財団法人吉野川紀の川源流物語

関東 (9 都県 14 団体)

- 茨城県
特定非営利活動法人ウォータードアーズ
- 栃木県
特定非営利活動法人トチギ環境未来基地
- 群馬県
チャウス自然体験学校
- 埼玉県
公益財団法人埼玉県生態系保護協会
- 千葉県
市原米沢の森を考える会
谷津干潟自然観察センター
- 東京都
特定非営利活動法人 NPO birth
公益財団法人日本自然保護協会
- 神奈川県
特定非営利活動法人海辺つくり研究会
特定非営利活動法人よこはま里山研究所
- 新潟県
特定非営利活動法人ねつとわく福島潟
- 山梨県
特定非営利活動法人木 net やまなし
山梨マイクロプラスチック削減プロジェクト
特定非営利活動法人フィールド'21



第2章 GreenGift 地球元気プログラムが残したもの

1-2 開催成果

環境体験イベントに参加した子ども満足度：88% ※2016～2022年

環境体験イベントに参加した大人満足度：90% ※2016～2022年

環境体験イベントの初参加者の割合：51%



参加した子ども・大人・東京海上日動社員の声



■環境体験イベントに参加した子どもたちの声

- 捨てられたごみを使って物を作れば、地球にやさしく楽しめるとわかりました。
- いろいろな人が里山を大切にしているのを知って、じぶんも里山を残すために協力できることをしたい。
- 毎回参加しているけれど、毎回景色がきれいだと感じられてとてもいい発見でした。
- 楽しかったです。ゲームとかしないで過ごす1日を増やしたいです。
- 友達に自然がどれだけ面白いかわ伝えたい。



■環境体験イベントに参加した大人たちの声

- 子どもも大人も一緒になって楽しめました。
- 自然を大切にしないといけないのは分かってはいましたが、実感できました。
- 身近な自然を知ることによって、自分の生活について考えられることが一番の学びでした。
- 自然と触れ合う場としてとても貴重です。いきなり一人で参加するよりはまずは他の皆さんと一緒に参加して地域の人と一緒に楽しみたい。
- こんな活動を自分の地域でもやってみたい。



■東京海上日動社員の声

- 被災地支援の取り組みや環境保全活動と防災との関わりを聞いて、学んだことも多くあった。社員や代理店の関係者にも、活動の意義を伝えることができるようにしていきたい。
- あまり自然と触れ合う機会のない社員もいるが、とても楽しんだ。地域の自然の中で遊ぶことを体験し、いろいろな気付きを得た社員などが別の社員に感想を伝え、次の取り組みにつなげていけるようにできればよい。
- 環境NPOと意見や改善策を出し合って、運営が出来たことがよかった。1回目の反省を2回目に生かすことが出来、参加者が楽しんで頂きたいという共有の想いを持って実施出来たことがよかった。
- プログラムに事務局として参加することで楽しみにしている親子がいることを知ることができました。子供達の真剣な表情をみることができ、「楽しく学ぶ」とはこういうことだと感じ、今後も積極的に関わっていきたいと思いました。
- 普段子供達と関わる機会がないため、このプログラムはとても貴重な機会であると感じました。事務局として楽しく参加させていただき、感謝いたします。

第2章 GreenGift 地球元気プログラムが残したもの

2. 取り組み事例紹介

地球元気プログラムでは、全国で多彩な環境体験イベントが開催されました。ここでは64の環境NPOのうち、複数年にわたりプログラムに参加、取り組みを深化させてきた事例を紹介します。

北海道

【開催概要】プログラム第1期から3期まで計9年間、計18回の環境体験イベントを開催、コロナ禍ではツール開発も行いました。環境体験イベントとしては、森林を中心とした活動フィールドでプレイパークや薪割り、クラフトなど、子どもから大人まで楽しく参加できる多彩なプログラムを実施しました。2018年に発生した北海道胆振東部地震の際には、「今こそ子どもたちが安心・安全に遊べる場が必要」と考え、三者で協議してイベント開催を決断。イベント当日は約100人が参加、被害の大きかった地域からも参加がありました。環境体験イベントの開催を通して被災で不安な日々を過ごす子どもとその家族に一息つける時間を作ることにもつながりました。

【実施年度】2013年、2014年、2015年、2016年～2019年、2019年～2022年

【支援団体】EPO 北海道

【実施団体】特定非営利活動法人いぶり自然学校（旧団体名：ねおす）

【開催実績】18回開催・1785名参加（うち子ども888名、参加率49%）、ツール開発2種

期	開催日	イベント名	参加人数(子ども人数)
第1期	2014年6月29日	月に一度は森づくり木育フェスタ	159名(85名)
	2014年9月28日	月に一度は森づくり森のひみつ基地づくり	113名(66名)
	2015年5月10日	『コミもり』～森を育む。森で育む。～WONDER FOREST in さっぽろ	237名(93名)
	2015年6月28日	『コミもり』～森を育む。森で育む。～木育フェスタin東川	203名(105名)
	2015年9月26日	『コミもり』～森を育む。森で育む。～「月に一度は森づくり！」	113名(55名)
	2016年5月8日	『コミもり』～森を育む。森で育む。～WONDER FOREST in さっぽろ	164名(89名)
	2016年6月26日	『コミもり』～森を育む。森で育む。～木育フェスタin東川	140名(75名)
	2016年9月11日	イコロの森FIKA～子どもオトナも森あそび～	95名(58名)
第2期	2017年6月25日	木育フェスタin東川	101名(53名)
	2017年9月10日	イコロの森FIKA～子どもオトナも森あそび～	107名(65名)
	2018年6月24日	木育フェスタin東川	161名(87名)
	2018年9月17日	イコロの森FIKA～子どもオトナも森あそび～	82名(48名)
	2019年6月23日	木育フェスタin東川	109名(58名)
	2019年9月7日	イコロの森FIKA～子どもオトナも森あそび～	32名(15名)
第3期	2020年8月30日	イコロの森FIKA～子どもオトナも森あそび～	83名(24名)
	2020年9月5日	木育フェスタin東川	30名(13名)
	2020年10月1日 ～ 2021年9月30日	【ツール開発】森のようちえんを通した森づくり～木育フェスタin沼田町	
	2022年7月2日	かしわの森でぼうけんあそび	17名(10名)
	2022年7月10日	木育フェスタin沼田	111名(40名)

第2章 GreenGift 地球元気プログラムが残したもの

栃木県

【開催概要】プログラム第1期と第3期に計4年間、計6回の環境体験イベント、2回のオンラインイベントとツール開発を行いました。県内で若者が整備・保全する森林・里山を活動フィールドとして、第1期では森の楽しさやおもしろさを体感してもらうことを目的に、「創る」「食べる」「遊ぶ」というテーマで草刈り、枝切りという整備活動からツリーイング、ネイチャーゲームといった遊びのプログラムを実施しました。第3期では新型コロナウイルスの感染拡大にいち早く対応し、特に環境体験活動の経験がしにくい子どもとその親子を対象にオンラインでの自然観察会を開催、自宅で楽しめる竹のプランターを開発しました。環境体験イベントの経験値を活かして、外出機会が制限されるコロナ禍でも地域の環境課題に気づき、考え、行動するきっかけをつくるためのプログラムに取り組みました。

【実施年度】2015年、2019年～2022年

【支援団体】関東EPO

【実施団体】特定非営利活動法人トチギ環境未来基地

【開催実績】8回開催（うち2回オンライン）・216名参加（うち子ども112名、参加率51%）、ツール開発2種

期	開催日	イベント名	参加人数(子ども人数)
第1期	2016年4月16日	ワクワク子ども未来基地イベント楽しいチャレンジ森だくさん!①	47名(24名)
	2016年5月14日	ワクワク子ども未来基地イベント楽しいチャレンジ森だくさん!②	40名(22名)
	2016年7月30日	ワクワク子ども未来基地イベント楽しいチャレンジ森だくさん!③	51名(20名)
第3期	2020年9月26日	わたねの森の、楽しい里山とおいしい畑でリフレッシュ	16名(4名)
	2021年5月21日	春のオンライン自然観察会(オンライン開催)	19名(14名)
	2021年9月10日	秋のオンライン自然観察会(オンライン開催)	17名(11名)
	2022年6月18日	初夏の市貝町の里山でしの竹切ってみよう&へちまを育てよう	13名(8名)
	2022年9月3日	秋の市貝町の里山でへちまのスポンジつくろう	13名(9名)

※2020年、2021年にはイベントと並行して「竹プランターによる在来種大豆栽培キット」を制作